



## 《診療の質》糖尿病患者の血糖コントロール

### 項目解説

HbA1cとは、赤血球の中で体内に酸素を運ぶヘモグロビンと、血液中のブドウ糖が結合したもので、糖尿病の患者では血液中に顕著な増加がみられます。血糖値が常に変化する一方、HbA1cは濃度が安定しているため、その値を調べることで過去1～2ヶ月の血糖の平均的な状態を知ることができます。

耐糖能正常者の基準値は4.6～6.2%（NGSP値）とされ、日本糖尿病学会におけるガイドラインでは、平成25年6月1日から「合併症予防のための目標値」を7.0%未満としています。

### 当院の実績

平成24年度	64.1%	
平成25年度	66.0%	
平成26年度	59.0%	(1,226 / 2,079)
平成27年度	60.8%	(1,296 / 2,130)
平成28年度	55.2%	(1,212 / 2,196)

### 当院の自己点検評価

健康な方と比較すると、糖尿病を発症されている方は虚血性心疾患（いわゆる狭心症、心筋梗塞）や脳血管疾患（脳梗塞、脳出血）の発生頻度も高く、重症化しやすくなります。

糖尿病の予防・治療のみならず、合併症に対しても定期的な負荷心電図検査、頸動脈超音波検査などを行い、発現を最小限に抑えられるよう取り組んでいきます。

### 定義

算式のとおり

### 算式

分子：HbA1c（NGSP値）の最終値が7.0%未満の患者数

分母：インスリン製剤または経口血糖降下薬を処方されている患者数